

京丹後市学校再配置基本計画(素案)説明会

- 1 開催日時 平成 21 年 7 月 16 日 (木) 午後 7 時 30 分～午後 9 時 30 分
- 2 開催場所 京丹後市立大宮第 3 小学校家庭科室
- 3 出席者 中山市長、米田副市長、大下副市長、米田教育長、和田市民部長、渡部企画総務部長、藤原財政部長、水野教育次長、田上次長、太田市民局長、増田学校教育課長、吉田文化財保護課長、数多教育総務補佐、白杉指導主事、横島文化財保護課長補佐、地元出席者 72 名

報 道 毎日新聞、京都新聞

4 内 容

- (1) あいさつ
- (2) 資料説明 ①京丹後市学校再配置基本計画 (素案)
②京丹後市立学校施設の耐震化計画 (素案)
- (3) 質疑応答

5 要 旨

市長あいさつ、京丹後市学校再配置基本計画 (素案) 説明、京丹後市立学校施設の耐震化計画 (素案) 説明 省略第一回目を参照。

質疑応答

(市民局長) これから質疑の時間に入りますので積極的な意見をお願いします。発言者は挙手のうえ、マイクを持っていきますので、その後発言をお願いします。

(出席者) 耐震補強は昭和 56 年以前に建てられた建物を震度 6 強に耐えるようにすることと思います。第 3 小は、第 2 小へ統合となっていますが市が出している地震マップでは第 2 小は震度 7 を想定している。旧耐震の補強は震度 7 に耐えられないと思うがどう考えているのか。

(市長) 子どもたちが安全に安心して学習できる環境を作るための補強なので、相当の地震が来ても耐えられる耐震補強をしっかりとる予定です。

(出席者) 補強工事では、建物の構造が変わるわけではないので、基礎係数までは直せない。新基準の建物には劣ると思うが。

(市長) 地震が来ても各学校が耐えられるための診断を今行っており、当然耐えられる補強工事をする予定です。

(出席者) 耐震化の目的は安全安心な教育環境を確保するためだと思うが第 3 小を第 2 小に統合するのは矛盾がある。第 2 小は郷村断層の近くに建っている。

丹後の地震を引き起こすのは郷村断層と山田断層であり、専門家によると 12 のセグメントがあるといわれている。口大野と三重の間に立地している第 2 小は活断層から離れている第 3 小より危険に近づくことになる。安全の観点からもこの統合は本末転倒ではないかと思うが、どういう経緯で検討したのか。

(出席者) 前に座っている人に聞きたい。第 2 小への統合は決まっているのか。

(教育長) 案ではあるがこの方向で進めたい。

(出席者) 過去の丹後震災の倒壊率は郷村断層沿いが多い。十分検討してもらいたい。折角補強しても地震の巣の上にある学校では頑強にしても危険である。反対に離れていれば、簡単な補強でも安全は確保できる。第 2 小付近には断層線は確認されてないが、近くにあると考えられる。

(市長) 指摘はよく理解できる。検討の視点に断層線までは入っていない。震度 6 強に対応できるような工事をしたい。

(出席者) 市の地震マップに震度 7 と記入してある限り、6 強の補強では壊れるということになる。ちなみに第 3 小は震度 7 の地域ではない。旧基準を補強しても新基準にはかなわない。

(市長) マップにどのように記載をしているか内容を確認して考えたい。現在のところは文部科学省の基準で耐震補強工事を考えている。

(出席者) 完全な教育環境を確保してもらいたい。

(市長) 耐震 2 次診断の結果を踏まえ、また断層の状況を再度確認して考えていきたい。

(出席者) 耐震診断は建物強度の診断をしているだけだと思う。同じ建物強度なら、震度が小さい所がより安全であり、断層に近づくほど潰れやすい。

(市長) 断層に関係なく 6 強の地震に耐えられるようにマップを書いた時の判断基準を確認し、技術的に対応が可能かどうかも含めて検討していきたい。

(出席者) 地域のことを十分気遣いいただいていることに感謝している。3 点質問をします。まちづくりと学校は密接な関係があり、学校があれば周辺に家も増えるし、活性化すると思われる。②森本工業団地を造成中であり、広域規格道路の延伸も予定され、京丹後市の玄関となる地域から学校をなくすのは矛盾しているのではないか。③複式学級になるので統合したいとの事だが、私は複式学級を経験した親です。複式学級に教育上の問題があったとは思っていません。むしろ、学校全体でカバーし寧ろ活気を感じられた。

(教育長) いろいろなとり方が出来ると思われれます。学校がないと寂れる。人も寄れない。という意見も多く聞きます。また、小規模学校のよさ、複式学級時のまとまりについての評価もたくさん聞きます。これは、当時の保護者、学校の先生方がすごく頑張って取り組んだ成果だと思っています。それを認めた

うえで集団で鍛えられる力をつける機会を子どもたちには必要だと考えています。小学 1 年生の父親の意見でこのようなものがありました。「地域の方の意見が今出たが、そんなことを今の時点で言っていたら統合なんてできない。「子どものため」を考え、合併には前向きであると PTA の意向は伝えてある。卒業した OB の意見で統合が白紙に戻るのはおかしい。」ある保護者の方の真剣な気持ちの一例だと考えています。小規模の良さを活かしながら、ある程度の規模を確保するには、第 3 小と第 2 小が一緒になればほぼ 20 人の学級になります。小規模校の良さ、集団の良さを両方持ったものを目指していきたいと思っています。地域がさびしくなる。という意見は多く出ます。発想を転換し、地域が盛り上がるよう地域間交流を工夫していきたいと考えています。例え第 2 小に統合になったとしても、第 3 小の地域で学習することは可能です。両地域の学習をすることで、地域から子どもの声がなくなることはないと思います。また、PTA もより大きなまとまりになり社会教育とも連携して地域づくりを広げていくことは可能だと思います。

(出席者) 前回の説明会でも聞いたが、今日の合併は何時ごろを念頭においているのか。30 年前の合併の時に今後急激に人が減るのは予想できた。横ばいか減るしかないとは私は思っていた。学校がなくなれば確実に人口は減る。町の方は 100 年の大計という話で当時学校統合の説明をしていた。30 年経ってまた合併の話。第 2・第 3 小を統合しても平成 26 年には 126 人だが原則としている学級 20 人にわずか 6 名多いだけである。この流れでは、またすぐに一桁の人数になってしまう。学校が合併され、なくなれば、「学校のないところへは帰れない。」「嫁に行けない。」となり人口減少に歯止めがかからない。減少という負のサイクルに陥ってしまう。適正規模といっているが、使い方次第でどうにでも取れる数字だと思う。首長が変われば前の人が言っていたことは知らないでは住民は何を信じればよいのか。具体的な長期的な見通しを示してもらいたい。分科会では現状維持で残すとなっているものが、教育委員会の採択案では統合になっている。なぜそうなるのか。教育委員会だけで決めるのなら分科会には必要がない。どうしても不信感が残る。不信を払拭していく努力をしてもらいたい。このままでは行政への信頼がどんどん損なわれる。大宮町には将来何校の学校が必要なのか。市全体を見通して考えてもらいたい。大宮、峰山を教育特区として考えるなど多くの可能性を検討してもらいたい。

(出席者) 関連して。30 年前三重小と五十河小が統合したが、当時の三重小の意見は第 2、第 3 と小学校を二つ作るより竹野川の川西あたりにまとめた学校を作ればという意見もあった。その時は意見に耳も貸さなかった。たった 30 年で予想どおり統合の話になった。今度の統合校も第 3 小のように

将来 20 年～30 年で再合併になるのではないか。大宮町は市になる前に学校統合を一度している。他町と状況が全く違う。仮に統合するのであれば通学のことを考え安全な場所に新校舎の建設くらいを考えてもらいたい。現在出ている再配置案でも 20 年～30 年で再度合併しなければならないようなところがたくさん含まれているように思える。

(教育長) 分科会の最終報告に至るまでに、大宮町の苦労も聞いています。分科会でもいろいろな案を検討しました。①現状維持、②第 1 小と第 2・3 小統合、③第 1 小を分割する案、④第 1 小へ一校統合、結果的に 12 名の意見が一本化できず 2 案併記となりました。一つは、すでに統廃合を終えているので現状を維持し人口動向を見て将来考える。もう一つが、教育委員会が採択した案です。検討委員会では今の 0 歳までの人数を用いて検討しており、その原則として、町域を超えない、通学圏のねじれを出さないことを前提としました。子どもたちの人数の減り具合をみると現状を放置すれば 10 年先に大変な事態が起こるので、今から再配置の検討に入ったわけです。再配置後 30 年先まで大丈夫と明言はできませんが、10 年くらいは大丈夫だと考えています。また、おっしゃるとおり新校舎をより良い場所に建設すれば合意を得やすいのは承知をしています。これも財政負担等を考え、現在ある校舎を利用するという前提で検討を行なっていますので、統合校はしっかりと補強するが、そうでない学校は財政を見ながら補強をするというのが、検討時の条件でした。その後で耐震補強に対する国制度が変わり状況は変わっていますが、財政が好転して校舎の新築ができればよいと思いますが、現状では大変難しいと思います。

(出席者) 平成 25 年の統合を目指しているが、統合の時期について、平成 23 年に 2 人しか入学者がいなくて複式学級になると思う。子どももさびしいし、保護者の負担も大きい。平成 23 年から統合という案の検討は不可能か。

(教育長) 平成 25 年に統合とした根拠は、当初複式学級が 25 年から発生するからということだった。23 年の入学は 3 人なので複式学級は発生しない。それまでに耐震検査や耐震補強工事など学習環境をしっかりと整備してから入っていただきたいという思いからです。地域からの強い要望があり、こちらの整備の条件も整えば前倒しも検討します。

(出席者) 平成 24 年は 4 人しか入学しないが、1・2 年生の複式学級が発生するのではないか。

(教育長) 当初は 25 年から発生すると考えていましたが、今ご指摘のとおり 24 年から複式学級は発生します。

(出席者) 先ほどの件是非検討をお願いしたい。

(出席者) 3 月 30 日の説明会にも出席し、パブリックコメントにも意見を寄せま

した。第3小から第2小へ何故行かなければならないのかわからなかったので、市のホームページやインターネットを利用して私なりに調べてきた。大宮保育所の統合にも関わったが、その時も地域の方は小学校もいずれ統合もあるだろうが、大宮町は一度しているので当面はないだろうと誰もが考えていたと思う。学校がなくなると過疎化が進む。今回の計画でこの地域は人が増えなくて良いと宣言したようなものだ。平成18年の都市計画の案も読んだ。大変いいことが書かれていた。平成21年に白書のようなものがまとめられていたのも見た。あらゆる事を考えているはずなのに学校については何故こんなに安易な案なのか。第3小が第2小へ統合が一番安易な方法ではないか。統合となると都市部中心への統合ばかり。過疎地域のことをどう考えているのか、人が減っていいのか、本当に一人でも人を増やそうと考えているのか。人口減を本当に解消しようと思っているのか。地区から学校をなくすというのはまるで逆行している。森本は工業団地や道路の建設で京丹後市の玄関にあたる場所に人がいなくなっても良いのか。私は3人の子どもがいて、計画で行けば第2小に5年生の時に統合されることになる。規則に定められている標準規模が大宮第1小や網野北小なら、第1小に統合という形もあったのではないか。またいつ第1小と統合といわれるか不安でならない。保育所がなくなった経験、学校がなくなった経験、地域へのあきらめや不安が行政への不信ばかりつのっていく。豊かな自然という京丹後市の良さは過疎地にあるのではないか。将来を担う子どもたちをその中でこそ育てるべきだと思う。そんな場所をなくすのはおかしい。分科会の話も聞いたが、発想の転換というなら、市もすべきである。20~50年先までの将来を見通したプランを出してもらいたい。同じ地域が何度も学校がなくなる経験をするのはおかしい。市としての過疎地への考え方となぜ第2小に第3小を統合するのか。第2小を第3小へ統合では人数も多く大変なのはわかるがその根拠を示してもらいたい。また第1小に統合しなかった理由は何か教えてもらいたい。

(市長) 様々な角度から真摯なお話をいただきありがとうございます。過疎化との関連で私の思いを述べたいと思います。学校と地域の関係は活動の拠点、地域の思いの拠り所、精神的な象徴であると思っています。それと同時に子どもたちが1日の大半を過ごし、人生の基礎、成長のための活動の場所でもあります。また子どもたちの長い人生の基礎をしっかりと培える組織でなければならないと考えています。学校に一番求められているのは、子どもたちの成長にとって何を与え、どんな活動ができるかなのだろうと思います。そのような教育的な観点で検討してきたつもりです。その結果、小規模校のよさもあるが集団の力も必要となり、規模の問題も考慮し、複式学級を避けて、平成25年を

念頭に統合する案を出したわけです。地理的な近接性を考え、第2・第3小の統合となりました。何故第2小かという点については教育長より説明があると思いますが、第2小と第3小を統合した人数の規模は必要だと考えたわけです。地域との関係は大切にしていきたいと思っています。私は、子どもを中心に考え、地域の活性力がかぶせていけたらと思っています。そのために例えば学校の跡地利用による交流・・・

(出席者) 逆も考えられるのではないですか。何故第2小は動かないのですか。

(市長) それはのちほど教育長より説明します。第2小と第3小の合わせた人数規模が子どもたちの成長には必要だという結論に至ったわけです。第3小、第2小両方の地域が子どもを中心に考え・・・

(出席者) 第2小に行けば、第3小は栄えるというのですか？

(市長) 出発は子どもたちとの関係を中心に考えていますが、跡地利用のことも地域の方としっかりと話し合っただけで活性化できるような利用をしていきたいと考えています。案を最終的に出すまでに平行してそのあたりを・・・

(出席者) 最終的な案は何時になるのですか、9月議会という話も出ていますが。

(市長) 全体計画を最終決定するには、耐震診断の結果を見ないと全体像がつかめません。診断の結果が出るのは7ヶ月以上かかり、その後、財政的なことを考えながら、計画を決定する必要があります。最終の時期は今年度末以降になりますが、その幅の中で学校跡地利用も地元としっかりと相談していきたいと思っています。第3小校区はまさに京丹後市の玄関口にあたりますが、第2小校区も含めて広い意味で玄関口の地域の学校がなくなるわけではなく、今二つある学校が一つになると考えてもらいたいと思います。統合される第3小校区は大変なのは理解できます。通学支援もしっかりとやっていきたいと思っています。

(出席者) 中心部には子どもたちの学校として十分な機能があるのですか。中心部が子どもたちにとって本当に理想の教育環境なのですか。

(出席者) この地域は一度学校統合を経験している。統合の経験者だ。よその地域と同じ説明では納得はできない。

(出席者) 当時の町長、教育長も今日と同じことを言っていた。私は先を見通し、何十年先に人は必ず減るといったのに聞かなかった。

(出席者) 複式学級を心配しているが、現在支障の出ている学校はあるのか。

(教育長) 支障はないが、複式学級は大変です。学校でも頑張っただけで取り組んでもらっています。市としても加配で指導員をつけて支援しています。複式学級の保護者からの希望はできれば解消して欲しいというものが多いと感じています。

(出席者) 市内の複式学級のある学校数はいくつですか。

(教育長) 5校です。

(出席者) 大宮町時代に合併して、第3小は30年です。他の町これから合併するところは多分100年近くあった学校だ。他の町も合併するのだから大宮もこの際一緒に考えようといった安易な数減らしなら、やり直してもらいたい。

(出席者) 第2小と第3小を合わせても将来的に子どもの人数は減るだろう。河辺や善王寺の子どもはこれからもどんどん増えるだろう。そこをしっかり見通して合併案を作る必要がある。今日さえ良ければよいという考え方の目先の案ではダメだ。

(出席者) 複式学級を解消してほしいという親の声が多いとの説明があったが、学校なくして欲しいと言っているのではない。私自身が都会で育ったので京丹後市はどこも比べると田舎だ。特にここは田舎。引っ越してここで子育てをしてみて、自分が大勢の中で過ごした経験からしてもこの環境は大変素晴らしいと思っている。市長は誰一人置き去りにしない政治を訴えていたと思う。この地域の人を置き去りにしないで欲しい。過疎化が進む地域は市の行政の末端の根の部分だが、そこを枯らさないようお願いしたい。

(出席者) 大宮町の小学校の3校に児童数の均衡をとることが大切だ。大宮中学校の現状をご存知ですか。授業ができない状態です。一つの町で600人近い学校と100人程度の学校というアンバランスがあるのはおかしい。保育所からの問題でもある。南保育所に一度集められ、小学校は3つに分かれて入学する。そのまま一つの学校に行けばよい。普通、複数の保育所から小学に入学、複数の小学から中学に入学という順序だと思うが、逆になっている。子どもたちの成長過程にあわせてより大きな環境を迎えるのが自然だ。黒板の上に学校目標がある。「郷土を愛し、豊かな心をもつ、たくましい力を育む」私は前年までPTA会長をしていた。児童の卒業式で校門を一步で新しいスタート、自信を持って輝いて欲しいと言葉を送った。小さいところを統合するだけでなく、大きなところを分散させ、人数を均等にすることも必要。人を動かすのに安易な少ない方を多い方にし、まして地震で危険のあることも十分に想定していない場所に決めるのは論外な話。保育所の保護者の方が、入学時に3人では本当に困るとの言葉は真実だと思う。2年生は男2人で女6人と男女比のバランスも悪く、複式学級になるかもしれないと聞けば当然不安だと思う。私の子どもも5年6年の時に複式学級になり不安だった。しかし学校の配慮や先生には大変上手にしてもらったと思っている。子どもも一生懸命勉強したし、複式学級が悪いとは思えない。それより小学校の人数の均衡化を考えて欲しい。第1小も含めての再配置案を是非検討してもらいたい。一度苦い経験を会場の人にはしてい

る。

(教育長) 第2小へ統合することは、輸送等通学支援を考えても小さい方から大きい方へ行くのが有効だと考えている。

(出席者) それは、第3小をなめている。

(市長) そんなことはありません。

(教育長) そんなつもりは毛頭ありません。誤解されたのであれば、私の説明が下手だったととらえていただきたい。第1小の1校統合という意見については、第1小の児童数は現在594人で平成25年の3校の合計は636人です。現状でも、運動会の時の路上駐車などが問題になっており、学校施設を拡張する場所もありません。また第1小を分割してという意見も分科会でもありましたが、一度統合したものを又分割するのはという意見もあり結局見送りとなりました。大宮中学校の授業の件は、課題がたくさんあり、今学校としても一生懸命取り組んでいます。

(出席者) 教育長の回答はピントがぼけている。原因を聞いているのだ。

(教育長) 大規模だからというのが原因だとは私は思っていない。先日も教育委員全員で授業参観をしました。保護者だけでなく地域の方にもオープンにして頑張っています。また、お母さんの一度統合してまた統合があるのではという心配については、丹後の現状では全く心配ないとは言えません。ある人口推計によれば、0歳から4歳の出生数は5年間で2010年は2,374人、2035年は1,269人という予想をされています。2010年に6万人を割り、59,576人となっています。現在の人口と考えても無視できない統計だと考え、人口の減り具合を考えると確かに不安はあります。また、先ほど市内の複式学級のある学校数を5校といいましたが4校で5クラスの間違いでした。訂正します。ちなみに今年は3校になっています。

(市民局長) 貴重な意見をたくさんいただいているわけですが、時間の関係も有りますので、どうしてもという方はお願いします。

(出席者) 大宮区長会からの要望で、地区ごとに学校再配置の説明会をしていると思いますが。

(市長) 誠心誠意説明することを考えています。区長さんと相談したいと考えています。

(出席者) この案を検討したメンバーはどんな方か。

(教育長) 検討委員会は町ごとの分科会の座長と副座長12人、各まちづくり協議会長6人、学識経験者2名の合計20人です。

(出席者) 基本計画案にも地域住民との理解と協力を得ると書かれています。ぜひとも各地区での説明会の実施をお願いします。

(市民局長) それでは時間も参りました。

(出席者) 再検討の余地はあるのですか。この案のままで行くのか。今までの経過を踏まえて再検討するのどちらですか。

(市長) この案が望ましいと思っているが基本計画案は保護者、地域住民の理解が必要としていますので、真剣な意見をどう整理していくかがこれからの課題だと思っています。